



1
4

第1問 答案用紙<1>  
(会计学)

会计学 第一問

素点: 20

科目順位: 927位

偏差値: 45.8

問題 1

問 1

0/10

①度外視法による場合の完成品総合原価 744,475 千円	②度外視法による場合の月末仕掛品原価 309,904 千円
③非度外視法による場合の完成品総合原価 269,204 千円	④非度外視法による場合の月末仕掛品原価 76,573 千円
⑤非度外視法による場合の減損費 118,982 千円	

問 2

2/8

⑥減損費の内訳(原料費) 85,880 千円	⑦減損費の内訳(加工費) 33,102 千円
⑧減損費負担後の完成品総合原価 千円	⑨減損費負担後の月末仕掛品原価 千円

問 3

0/2

減損費に含まれる原料費も度外視法では実在量基準、非度外視法では完成品換算量基準でそれぞれ負担計算を行っているから。

問 4

4/5

⑪ か	⑫ こ	⑬ え	⑭ い	⑮ お
-----	-----	-----	-----	-----

6/25



0 5 0 1 0 2

7
2
4
2

第1問 答案用紙<2>  
(会 計 学)

問題 2

問 1

4/8

直接材料費差異			直接労務費差異		
価格差異	2,480,000 円	(不利) 差異	賃率差異	8,000 円	(不利) 差異
数量差異	360,000 円	(不利) 差異	時間差異	280,000 円	(有利) 差異

問 2

3/5

- ① 管理 ② 管理 ③ 能率 ④ 528,000 円 ⑤ 理想

問 3

4/4

メリット: 達成可能高効率を目標とすることにより新人工員の仕損削減に対するモチベーションを喚起し、短期的に最も良い原価業績を引き出すことができる。

⑦ 棚卸資産価額

問 4

2/2

メリット: 仕損ゼロという長期的目標に向けて、回避すべき無駄を完全に明示することができ、長期的な仕損削減の動機付け効果に資する。

問 5

0/2

根拠: 材料の期末棚卸数量は消費量と比べて少額とばかり、重要性の観点から、期末棚卸分に配賦する差異を無視できないから。

問 6

2/4

⑩ 活動基準原価計算

意義: 当該製品群は段取活動や検査工程が複雑なことから採集度は無関係に及ぶ複雑性・多様性関連コストが多量発生している。これをバリエーション・ドライバーを活動基準として配賦すると、それによって資源の消費状況を製品毎に精査化することができる。因果関係重視で原価計算を行うことが

14/25 K7-3

評 点
20/50



0 5 0 2 0 1

3
4

第2問 答案用紙<1>  
(会 計 学)

問題1  
問1

会計学 第二問

素点: 11  
偏差値: 50.2

0/4

20x1年度の税引後営業利益は3.6%であった。食料品の仕入販費率を記す。

問2

0/4

名称	自己資本回転率	数値	10.3
----	---------	----	------

問3

1/4

当該指標はEBITDAである。その数値は1250百万円である。利息・償却税金の影響は各国で異なるから、これを除外して比較可能性が高くなる。

問4

6/6

設問1

売上債権回転期間	棚卸資産回転期間	仕入債務回転期間
32.5 日	47.7 日	37.6 日

設問2

1/2

この場合、設問1の数値の棚卸資産回転期間の数値は大きいので、実態に則したものと推定される。

問5

0/2

設問1  
百万円

0/3

設問2

8/25



0 5 0 2 0 2

4
4

第2問 答案用紙<2>  
(会 計 学)

問題 2

問 1

%

ア	イ	ウ
エ	オ	カ

3/4

問 2

用語	機会損失	金額	円
----	------	----	---

問 3

0/2

製品Aの成熟期にあるため、その販売・生産に係る原価は固定費が多くなると思われる。この中の毎期政策的に支出を決定する広告費等のコストを削減する。

問 4

1/2

相対化する財務指標は売上総利益率であり、自社ブランドの地位を確固たるものにする事で当該指標の数値は上昇する。

問 5

%

設問 1

20X1 年度末	20X2 年度末	20X3 年度末
円	円	円

%

設問 2

正味現在価値が  円 となるため、

アタッチメントを購入し利用するのが  有利である。  不利である。 (いずれかを○で囲む)

%

3/25

評 点
11/50